

教育 相談室

今一度、考えたい

中学二年の長女と小学五年の二女がある共働きの家庭です。ある日警察から「お子さんのことでお話したい。」と電話がありました。取り急ぎ行きますと、長女と友達二人が多く品の物の前にいました。量販店で万引きをしているところを補導されたのです。共働きのため、昼は子どもをみる事ができず、非行を繰り返さないかと心配です。

最近、万引きの増加傾向が見られます。遊び感覚で行われる万引きは、非行化への玄関口ともいわれ親の適切な対処が大切です。「我が子に限って」と思いたくなるのはみんな同じです。それだけに今度のことには驚き心配をされておられることでしょう。中学生ともなれば善悪の判断はできます。今度のことも、心の中では罪の意識をもち反省していると思います。しかし、人の前では弱気を見せず意地を張るの

み合って子どもは育つので。今度の場合、母は父に詫言るよう子どもを諭し、父は子どもの心の動きを受け止める包容力が大切でしょう。子どもは親の態度から信頼されていると感ずれば繰り返さないと考えます。親子の絆をしっかりと結ぶことが肝要です。

●幼児期から規範意識を

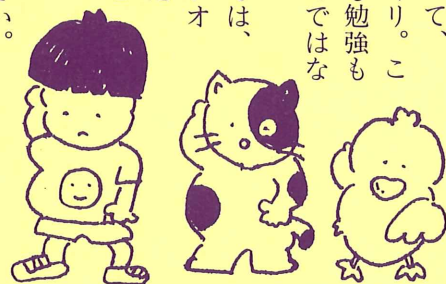
ある日、スーパーで幼児が自分を選んだお菓子をレジの前に置き、母親がお金を

を払うまでお菓子に手を触れないで待っている姿を見かけました。この光景はあたりまえかもしれませんが、しかし、この母親は、店ではお金を払って品物ももらうことを幼児期からしつけているのでしょうか。幼児期・小学生のとき規範意識や生活習慣を身につけさせ、自立心が強くなる中学生では問題が解決できる能力を育てる家庭であってほしいと思います。(丹南青少年愛護センター)

地域、家族ぐるみでラジオ体操を

ラジオ体操によって、体も頭もスッキリ。これで一日の仕事も勉強もスムーズに進むのではないのでしょうか。今年市民会では、家族ぐるみでラジオ体操に取り組んだ町内を表彰することになっておりますので、がんばってください。

(鯖江市民会)



「愛の一声を」 鯖江市内をはじめ県内の市町村で、下校途中の児童を「タマゴッチ」で車に誘う事件が発生しています。さらに、それ以外にも「公然わいせつ」等の事件も発生しています。子どもたちに「気をつけて帰るように」「グループで行動を」の愛の一声をお願いします。

はぐみ

発行 鯖江市教育委員会 鯖江市社会教育委員会 青少年健全育成鯖江市民会議 協力 丹南愛護センター鯖丹支所



12号

忘れていませんか、人間として大切なこと

(吉川小学校児童)



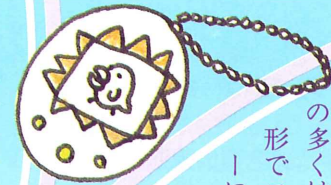
現代の科学技術の進歩はめざましく、私たちの生活を一変させてしましました。しかし、その進歩ぶりに驚いているばかりではいけません。光が強ければその陰もまた濃くなる理の通り、科学技術の輝きが増せば人間性を見落とすという暗い陰もまたひきずっているのです。

人間らしさを取り戻す方法

割り切れないのが人間の心

アメリカにシリコンバレーと呼ばれる地区があります。

そこは世界でも有数なコンピューター産業の盛んなところで、住民の多くはなんらかの形でコンピューターに接しているといえます。



タマゴッチが異常な人気を呼んで、子どもたちは、「太りすぎた。叱つたらグレた。死んだ。」と騒いでいます。なかなかおもしろいもので、よく考えたなと感心してしまいます。

しかし、これとて単なる機械、実際に小鳥やペットを飼って体験するものとは違います。

これを擬似体験(ぎじたいけん)と言います。

またビデオなど映像の世界にのめり込みすぎると、映像の世界があたかも現実のように錯覚してしまふ、

滴 涓

人間の体温は、大昔から「平均三六度五分」と決まっています、と殆どの人は信じ込んでいるでしょう。事実そうでありました。

ところが最近「低体温の子が増えつつある。」と指摘され驚きました。研究された日体大の正木教授は、幼児期から高校生までの年齢層では三六度

別のことでも有名になりました。その内容は、離婚率の高さです。コンピューターと離婚率、一見奇妙な取り合わせのように見えますが、ちゃんとした理由があるのです。

四六時中コンピューター研究に取り組んでいる人は、コンピューター思考という思考方式にとりつかれてしまふそうです。コンピューター思考とは、簡単に言えば機械的なもの考え方といつていいでしょう。

人間の思考は、機械的に割り切れるものではありません。愛情と機械的

タマゴッチに学ぶ

そのせいでいるのです。



これを仮想現実(かそうげんじつ)と言います。両方とも生きた現実を陥としてしまう危険をはら

以下の方が多くなった、とおっしゃっています。その原因は、寒いときには暖房、暑ければクーラー、全く温度差の少ない快適な生活環境に慣らされたため、身体にそなわった暑さ寒さに対応する自律神経系や内分泌系の働きがぶつてしまふ、低体温化を招いてしまふのではないかというのです。

今、子どもの体温が下がっている

この影響は大人にも現れています。近頃、自律神経失調症の人が多くなってきました。それは、小さい頃から自律神経を鍛えることをやっておかなかつたこと起因してると言われています。

少なくとも一日三十分以上、へとへとになるまで大汗をかいて遊ばすことが大切でしょうと警告しています。

ので、あきらかに違いがあるのです。

四六時中コンピューターなどと対面していると、この違いがだんだんわからなくなり、人生も計画通り展開していくものだ、という錯覚を生んでしまふのです。もうすでに各家庭には、パソコン、インターネットなどがすっかり定着しました。子どもたちは嬉しそうに取り組んでいます。それはそれで止めることができないでしょう。そうであれば、機械的な考え方に走らないようコントロールする必要があります。

そのため、家庭では人間くさい話をたくさんするこトです。たとえば、父さんの失敗談を交えた人生観、



自動販売機は、金が入れば望むものが出てきます。孤立した個室には、テレビも冷蔵庫もあり、携帯電話はどこにいても話が通じます。

こうした孤立した生活が普通となったせいか、若い人たちは人と人との交流、関わり方が下手になりました。ことば使いも乱れています。

「指示待ち症候群」―指図してくれないならなんにもできない子、身辺処理能力のない子などが増えています。

兄弟姉妹が少なく、人との交わり

コミュニケーションが大切

家庭間のコミュニケーション不足が、この現象に拍車をかけていると指摘されています。

知恵という字は、恵みを知ると書きます。昔ある人が「水を呑んだら井戸を掘った人のことを想え。」と言いました。

私達は目先の便利さにかまけて知恵を見失ったように思えてなりません。家族のコミュニケーションは、もっと知恵ある題材で、幅広く行うことが必要ではないでしょうか。

